

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童(生徒)の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童(生徒)一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童(生徒)の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国平均を上回り、全領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に
関する事項)」で平均正答率を上回っています。特に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率は
100%でした。また、無解答率は0.0%で無解答はありませんでした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「話すこと・聞くこと」が 22.2 ポイント、「書くこと」が 39.3 ポイント上回りました。
成果としては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力が伸びていることが考えられます。本校では、児
童生徒の学力を向上させるために、「思考力の育成」や「コミュニケーション能力の向上」を研究の
柱にして、実践を行ってきました。授業中の話し合い活動や発表の場では、話型(順序・理由付け
等)に気を付けて発表させるようにしていました。また、毎月のブロック集会では、前期・中期・後期
ごとに発達段階に応じた「めあて」を設定し、「相手意識をもたせながら表現すること。」に力を入
れて取り組みを行っています。そのような積み重ねが成果となって表れていると考えられます。課
題は、「要約する力」と「漢字の正しい使い方」です。日頃から、「長文を読み、筆者の伝えたいこと
を短くまとめること。」や「用途に応じた漢字の使い方を意識させる。」など、ねらいをもって学習に
取り組ませることが必要だと考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 導入の工夫や学習の動機づけを行うことで、児童生徒が主体的に課題を解決しようとする力を育むようにします。
- 「北山思考スキル」を活用し、論理的思考力を育成するようにします。
- 読み取る力を身につけさせるために、「言の葉タイム」(スキルタイム)を設定し、学年に応じて学習活動を行っていきます。
- 図書館教育とも連携を図り、読書の質を高める工夫をしていきます。

【ご家庭では】

- 読書で語彙力を養っていく機会をつくってください。
- 家庭で会話をすることが大切です。聞くときは話を最後まで聞き、話すときは語尾までにはっきりと話し、共感したり、理由や根拠を尋ねたり、互いの考えを交流してください。
- 音読や漢字の学習では、頑張っているところを誉めてください。

2 算数(数学)

(1) 結果

5つの領域で全国平均をすべて上回っています。また、無解答率は 0.0%で無解答はありませんでした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「図形」「測定」「データ活用」の3領域で24ポイント以上、上回りました。成果としては、「図形」領域では、三角形や複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や加法性を基に捉え、比較する力がついています。「測定」領域では、二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述したり、条件に合う時刻を求めたりする力がついています。「データ活用」領域では、「棒グラフから、数量関係を読み取ったり、データを分類して整理したりする力」がついています。また、「帯グラフの複数のデータを比較し、特徴をもった項目とその割合を記述したり、集団の特徴を捉えたりするために、必要なデータを集めたりする力」がついています。課題は、「数と計算」領域での「商が 1 より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすること」と「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を 1 としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する。」ことです。日々の授業で、説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、立式や数字の意味をきちんと理解させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 単元の導入工夫とゴールを明確にし、子ども達に意欲をもたせるとともに、主体性を育てていきます。
- キーワードを用いて自分の言葉でまとめたり、順序を表す言葉を使って、筋道を立てて論理的に説明したりする活動を行います。
- 自学ノートの活用と、授業で取り扱った学習の発展的な問題への挑戦をさせ、学んだことを生活や学習に生かそうとする態度を育みます。

【ご家庭では】

- テストの結果だけでなく、お子様がどんな問題が得意で、どんな問題が苦手なのか、家庭学習の様子に目を向け、励ましや称賛の声かけをお願いいたします。
- 少しでも算数に興味や関心をもたせるには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな。おもしろいな。」と思わせることが一番です。学習した算数を使う場面を意図的につくってください。例えば、「おかし数えでかけ算」、「おかし分けで割り算」、「料理で重さ」、「お風呂で水のかさ」、「買い物で割合」、「折り紙で分数」、「家の中で図形探し」等、身の周りには算数を使う場面が多くありますので、親子で考えてみてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

生活習慣や学習習慣に関する調査では、全ての項目で全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを基軸にしながら家庭と学校が協力して、習慣化を図っていくことが大事だと思います。自己肯定感や挑戦心、規範意識の項目については、全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

家庭学習については、計画を立てて勉強に取り組んでいる割合が全国平均よりも高く、学習に向き合う心構えができています。学習時間も30分以上～2時間の幅で勉強に取り組んでいます。「家庭学習の手引き」を下敷きにして一人一人に配布しているの、今一度、家庭学習の意味を再確認して習慣化するように指導をしていきたい思います。また、新型コロナウイルス感染症拡大で休校になったり、今までのような学習活動ができなかったりしたことにより、不安を抱えながら生活していたことが分かりました。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 家庭学習は毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を出します。自主学習(自学)についても、自学ノートを掲示したり、工夫を凝らした自学ノートを称賛したりすることで、児童生徒が意欲を持って自主学習に取り組むようにしていきます。
- 「家勉強がんばろう週間カード」や「学校評価アンケート」をもとに、生活習慣や学習習慣についての個別指導を続けていきます。
- 今年度も全学年で「立腰」に取り組み、集中して学習することに取り組んでいきます。
- 新型コロナ感染防止対策として、検温・マスク着用・うがい・手洗い・消毒・換気の徹底を施し、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるようにしていきます。

【ご家庭では】

- 児童生徒に配布した下敷き「家庭学習の手引き」に書かれてある家庭学習の内容をご確認ください。日々の励ましや賞賛の積み重ねが児童の「やる気」につながっていきます。
- 家庭でも「立腰」の取り組みへのご理解とご協力をお願いします。
- テレビや新聞のニュース等で、社会情勢や国内外の歴史や文化が学べます。ご家族の皆さんで児童の可能性を育ていきましょう。
- ご家庭の方でも、うがい・手洗いを中心に、規則正しい生活を送ることができるように声掛けをよろしくお願いいたします。